

# 「UFO ライダース」

プロット 大岡俊彦 (100分想定)

ラジコンカーだけが唯一の友達、いじめられっ子の繁は、ある日「ドローンレース」に出会う。それは、色んな所で無許可でドローンを飛ばし、その空中レース映像をネット配信する怪しげな団体「UFO レース」だった。

週末に UFO レースに誘われる繁。チームメイトには、一度も話したことのないクラスの秀才、水本がいた。

これは、UFO レースを通じて友情を育む、一種の青春ストーリーである。

## <登場人物表>

林繁 (15) いじめられっ子。ラジコンカーが唯一の友達。

水本涼 (15) 成績優秀の秀才で、クラスでは浮いた存在。

轟 (15) 繁をいじめている。

小野寺 (60) 繁の逃避場所、「オノデラプラモ堂」の主人。

ヒデ (30) 社会人をしながら、「UFO レース」に参加。

鬼塚美月 (33) 非合法イベント「UFO レース」主催者。

権藤警部 (50) UFO レースを現行犯逮捕しようとしている。

チャリオッツ UFO レースの常勝チーム。大口スポンサーがついていて、最新機器を常に使用。銀一色のドローンで 3D スコープ装備、人工知能で機体を安定させ、太い回線の iPhone で片手操作する。

# ACT 1

土曜深夜の渋谷、ラブホテル街。

ガスマスクやお面で顔を隠した人々が集ってくる。警備員に袖の下を渡し全員屋上へ。

それぞれのケースから出てきたのは、小型のレース専用ドローン。骨組みに基盤むき出しのカスタム機たちだ。ネット配信機材が立ち上がり、エロティックダンサーがトランス音楽で踊り狂えば、レーススタート！

今夜の非合法配信ドローンレース「UFO レース」は、渋谷ラブホテル街、屋上周回コースだ。赤や青のLEDで光るUFOたちが時速150キロを叩き出す。ネオン看板をかき潜り、非常階段でセックスするカップルを驚かせる。ドローンに積んだカメラの映像を見ながらのFPV（主観映像：ドローン目線）エアレースは、ネットの世界での密かな流行だ。

高校一年の林繁(15)は、今夜がデビュー戦。「あの日ぼくがUFOを見た時から、これははじまっていたんだ」

時間戻って、繁の日常。

教室の窓から空ばかり見ている繁。今日もいじめっ子の轟(15)が連れ出しに来た。周りの友達は見ても見ぬふり。屋上で殴られる繁。その間、空ばかり見ている。

日曜日の川原。繁の趣味は、唯一ラジコンカーだ。「地べたから離れたい」と、土でジャンプ台をつくる。そこへ轟たちが通りかかり因縁をつけられ、ジャンプ台も車も壊されてしまう。殴られ、地面に大の字に転がされる繁。

その空に赤いUFO。…UFO？ 違う、8本ローター……ドローン（カメラ付きの、複数ローター制御ラジコンヘリ）だ。

繁が心を許すのは、「オノデラプラモ堂」の主人、小野寺じいさん(60)だけだ。壊された車の修理を頼みに来たが、モーターの軸受けごと交換と言われ、へこむ。「あいつらにやられたんだろ。友達は何も言わんのか？」「友達のピンチに何もしない奴なんて、友達じゃない」

そこへ主人の馴染みの客、ヒデ(30)が、ドローンのオーバーホールをしにきた。二人で奥へ引っ込んだ隙に、開きっぱなしのノートパソコンを見る繁。そこで見たのは「UFO レース」の衝撃的映像だった。林を駆け抜けて飛ぶ目線、廃墟を自在に飛ぶ目線。「俺、空を飛びたい」と繁は車をやめて、小さなドローンを買うことにする。

自室で川原で、繁は練習する。基本はFC（フライトコントローラ）が4つのモーターの回転数を自動制御してくれるが、安定性を見極めるのが難しい。特にカメラの映像

を見ながらの飛行に慣れない。

と、上空にあの赤い UFO を再び目撃。自機をその高度まで上げる繁。しかし横風に流され、無駄にローターが回りバッテリーが切れてしまう。繁機は山の中へ墜落。UFO の主が直接拾いに来て、カメラを公園の標識に向けてくれる。その顔には見覚えがあった。同じクラスの水本(15)だ。

次の日。繁は勇気を出して、話した事のない水本に話しかける。「勉強が忙しい」と、彼は大学数学の問題集をやっている。「赤い UFO…」と繁が言うと、水本は顔色を変え屋上に誘う。「昨日の事は黙ってて。俺がドローンをやっているのは秘密だ」と。

プラモ堂では、ヒデさんのドローンレースチームの一人に欠員が出たと。「この子ドローンはじめたばかりだけど」と小野寺が繁を推薦してくれる。丁度いい、完走1ポイントでも欲しい、これからミーティングだから来てくれと。ついていくと、残りのメンバーとはなんと水本だった。驚く二人。「なんだ友達だったのか」「別に、友達じゃありません」と水本は心を開かない。

「軍艦島で最終決戦が行われる」と噂の「UFO レース」。その賞品は、次世代モーターの最高級ドローン。「一番遠くに飛べる翼が欲しい」と、繁は参加を決めた。

## ACT 2

そして冒頭のレースシーンへ。ルールは1チーム3機のリレー制。機体もコスチュームも銀色の最強チーム「チャリオッツ」、柄の悪い「藤沢エンペラー」、広告塔の「青山モデルガールズ」など、個性溢れるチームたちに混じり、繁が飛ぶ。

非合法レースらしく、空中に粉を撒いてローターを詰まらせたり、妨害電波を出したり、ダーティな手段も多い。繁はラジコンの素養があったせい courses 取りが上手い。結果、3人抜きを達成。美人主催者の鬼塚美月(33)に名刺を貰った。

UFO レースは隔週土曜開催。神社周回(千本鳥居くぐり)、銭湯貸切(男湯から仕切りを越えて女湯へ→のれんをくぐって外に出て、煙突ごえ)、ガラス張り植物園、廃遊園地周回などなど、個性的コースばかり。その中で、繁と水本は少しずつ話すようになる。

ネットで多少知られても、リアルでは繁はいじめられっ子だ。ある日また屋上に連れて行かれた。が、一台のドローンが来てカメラを向けた。轟は上着で捕まえ、粉々に壊してしまう。轟たちが去った後、ドローンを回収しに来たのは、やはり水本だった。「証拠を撮ってやろうと思ったんだ」と水本。繁は「ラジコンが壊れるのを見るのは身が切られるように痛い」と、ラジコンと自分を同じだと思っている。「ドローンは機械だ。

痛くない」二人はぎくしゃくする。

轟が先生に呼び出された。撮影データが壊される前に転送済みで、水本が送りつけたのだ。しかし水本が轟の舎弟に目撃されていて、轟は水本を屋上へ呼び出す。今度は繁がドローンを飛ばして写真を抑えた。轟は石を投げるが、軽い繁機の急上昇についていけない。轟は渋々水本を殴るのを諦めた。

一方 UFO レース主催者、美月は警察に呼び出されていた。美月は「あの映像は CG」としらを切る。現行犯逮捕を決意する担当の権藤警部(50)。

次の UFO レースは、なんと深夜の山手線一周レース。

レースは荒れに荒れ、繁機はクラッシュ。機体は真二つでパーツも四散してしまった。通報を受けた警察がライダーたち数名を現行犯逮捕。繁たちはからくも逃げた。

次の朝、「現場に戻るな」との通達を無視して、繁はパーツの残りを探しにくる。水本がつけてきた。「なんでお前そこまでパーツに拘るんだ。所詮道具だろ」「お前には機械かも知れないけど、俺には自分の一部なんだ。俺はドローンで飛んでるときしか、俺じゃないんだ」権藤警部に見つかる二人。なんとか逃げる。

対照的に、水本はドローンの実戦データを取るのが目的だ。彼が必死に勉強するのは理由があった。母が持病の発作で、救急車に乗せたが渋滞に巻き込まれ、救急車の中で亡くなっていたのだ。「ドローンで運べば、間に合ったかも知れない」これが水本の動機だ。「だからドローンは機械だ、肉体じゃない」「じゃあお前の母さんも、モーター取り替えれば治ったろ」繁は言い過ぎてしまい、二人は殴り合いの喧嘩に。

ほとぼりが冷めるまで、UFO レースは休止。HP も削除された。あの熱狂は空中分解だ。

川原で一人佇む繁。壊されたままのジャンプ台。夕日にまた赤い UFO。水本だ。あいつは全然諦めていない。あいつだって優勝賞品の最新ドローンを分解して研究したいと言っていた。「……友達のピンチに何もしない奴なんて、友達じゃない」

繁は名刺を貰った美月に連絡を取った。「友達がまだレースを諦めてない。なんとか再開出来ないですか」と直訴。「じゃあその友達と直接オフィスへ」

繁と水本は指定された場所に行く。そこは有名メーカー「〇〇〇」だった。「私の裏の顔は UFO レース主催者、表の顔はドローンメーカーってわけ」と美月は正体をさらす。「まだ日本では法律が整っていないから、ドローンレースは非合法になるだけ。ドローンの技術は熟成していない。でも技術を進化させるのは、競争しかない」と。「じゃあ、益々こいつの為にレースを復活させてください！」と繁。水本も繁をかばう。「こ

いつはドローンを飛ばしてないと自分じゃないんです。こいつに居場所を！」二人同時に「こいつにドローンをさせたい！」と。

権藤警部から裏取引があった。ある難事件を解決してくれたら逮捕者も見逃し、UFOレースも見逃すと。美月は承諾、決勝レース開催を宣言し、ライダー達を集める。ただしネット中継なしのシークレットで、だ。

そのファイナルステージとは、あるヤクザの組長の要塞屋敷。

そこに少女が監禁されたいののだが、物証がないので踏み込めないという。ドローンで潜入し、証拠写真を送れないか、というのが依頼だった。「撮影なら、ドローンの十八番だ」

## ACT 3

権藤警部がドアを別件で開けさせる。その隙に UFO 達が一気に侵入、屋敷中に散らばる。「なんだこいつらは！」とヤクザ達がドローンに襲いかかる。番犬のドーベルマン vs ドローン、ヤクザの日本刀 vs ドローン、ヤクザの拳銃 vs ドローンなどの、見たこともないドローンアクション！

屋敷内は上へ下への大騒ぎ。改造屋敷のため、元の図面と現状が違う。カメラの中継を見ながらアドリブで探すしかない。機体のない繁は、図面を見ながら水本のナビに徹する。はじめてのコンビプレイだ。皆は地下室が怪しいと地下室へ向かう。しかし、繁だけが「そこは違う」と。いじめられっ子の勘だ。人は何かを隠すとき、本命に見えなさそうな所に隠すものだ。繁は不自然な階段下のスペースに気づく。

ヤクザの日本刀が振り下ろされ、水本機は真っ二つ！ だがその中には、ものすごく小さいサイズに改修された繁機が格納されていた！ 「合体ドローンかよ！」

繁が予想した場所に、その少女はいた。写真転送、証拠は抑えた。警察が踏み込むその瞬間、繁機はヤクザの拳銃で撃ち抜かれ、ロスト。

少女は助け出され、優勝は繁達に決まった。

水本は繁に言う。「お前の言う、肉体の一部が痛む感覚、今分かった。つらい」

繁は返す。「命は直せない。一人の命が助かってよかった。機械は交換すればいい」それぞれの主張をわかりあい、二人ははじめてハイタッチをする。

「ぼくの欲しかったものは、空中にではなく、地上にあった」

エンドロールは、少し未来に合法となった体の、軍艦島レースで締めたい。